

機関番号：34419

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008 ～ 2010

課題番号：20530330

研究課題名(和文) プロスポーツ選手の現役引退に関する経営学的研究—内的キャリアの実証分析

研究課題名(英文) Analysis on the Psychological Affect of Top Athletes' Career Transition during Retirement

研究代表者

小川 千里 (OGAWA CHISATO)

近畿大学・経営学部・准教授

研究者番号：90340760

研究成果の概要(和文)：

本研究は、プロスポーツ選手の現役引退に伴っておこるキャリア上の諸問題を、経営学的視点から明らかにし、第二の職業人生に対する望ましい支援の方法について検討することを目的に行われた。プロスポーツ選手のキャリア・トランジションに関して、(元)Jリーガーと既存の支援システムを対象とした定性的調査を実施した。その結果、スポーツ選手の引退とその後のキャリアへの移行の実態を詳らかにした。そして「現役時代」の行動や考え方の傾向と周囲の人の属人的な要素が、引退に関する「内的キャリア」や支援に影響を与えること、選手個人が引退に伴う心理的激動を受容するために望ましい支援の特徴と組織の在り方を見出した。

研究成果の概要(英文)：

Career transitions among Japanese top athletes and support for them are analyzed from the psychological perspectives. The specific purposes of this research are (1) to explore intellectual retirement stages experienced by Japanese top athletes transitioning from professional career to post-retirement career, and (2) to discuss desirable support systems for them. Qualitative semi-structured interviews were conducted with ex-professional soccer players who were randomly selected for this research, and the official services offered by the employment bureaus (Career Support Center) of the Japanese professional football league (J league) were also reviewed. Conclusions in this research are the following: (1) the developmental process of Japanese athletes' career transition is influenced by their way of thinking and behavior before retirement, (2) both courageousness (internal support) and approachability (external support) are significant for Japanese top athletes during their retirement.

交付決定額

(金額単位：円)

|        | 直接経費      | 間接経費    | 合計        |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2008年度 | 1,000,000 | 300,000 | 1,300,000 |
| 2009年度 | 800,000   | 240,000 | 1,040,000 |
| 2010年度 | 500,000   | 150,000 | 650,000   |
|        |           |         |           |
| 総計     | 2,300,000 | 690,000 | 2,990,000 |

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学・経営学

キーワード：トランジション, アスリート, キャリア発達, 支援, カウンセリング, 引退

## 1. 研究開始当初の背景

わが国のプロスポーツ選手ならびにトップ・アスリートの現役引退と、その後のキャ

リアに対して関心が集まっている。ほとんどのプロスポーツ選手たちは、20代か30代という、人生のきわめて早い時期(若年期)に引

退という衝撃的な経験をし、その困難を乗り越えて第二のキャリアを模索しなければならない。

一方、本研究に先立って行った文献研究では、引退前後の元Jリーガーにとって、職業斡旋や技能訓練を主眼とした「外的キャリア（職業や会社でのキャリア）」の支援よりも、「内的キャリア（進むべき方向や自分の役割について、本人が主観的に認識するキャリア）」についての支援が重視されるべきであることが示唆されている。たとえば、選手の中には戦力外通告（引退）の事実を容易に受容できず、新たな職業や役割を獲得していくプロセスで苦しむ者もある。そのような場合には、今ある職業斡旋・技能訓練的な支援を受けたとしても、効果的であるとはいえない。自分で引退という事実を受け容れ、新たな人生を切り開くためには、選手自身の「内的キャリア」を確立していくための主観的・心理的支援が必要となる。

プロスポーツ選手の職業移行については、我が国における先行研究は希少である。世界的にみても、労使関係論からのアプローチや社会学からのアプローチはあっても、プロスポーツ選手の引退をめぐる現象に対して、心理学的観点、特に個人の主観的理解からアプローチをしていく試みはこれまでほとんど行われていない。そのため、選手自身も、引退にかかわる困難な内的プロセスに戸惑い、自らのキャリアの移行を行うための準備ができていないだけでなく、彼らに支援を行える球団側（雇用主側）でさえも、選手が求めるものをうまく認識できないでいる。本研究に取り組むことにより、プロスポーツ選手の引退前後の心理的問題を検討し、望ましいキャリア支援のあり方を解明したい。また、選手と支援の間にあるギャップを埋め、国内外での経営学的研究に対する学術的貢献を行いたい。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は次の二つである。(1)プロスポーツ選手の現役引退に伴って起こるキャリア上の諸問題を、心理学を背景とした経営学的視点から明らかにすること。(2)セカンド・キャリア、すなわち、現役引退後の職業人生に対する望ましい支援の方法について検討すること、である。

## 3. 研究の方法

本研究の成果は、文献調査、分析モデルの洗練、初期分析および事例の選定、インタビュー調査とデータの分析により得られた。

インタビュー調査の主たる対象となったのは、元プロサッカー選手（元Jリーガー）であった。インタビューに要した時間は、一人当たりおよそ90分～180分であった。調査

方法は、1対1の半構造化インタビューであった（状況によって、別の調査者が観察によるメモを取っている場合があった）。インタビュー項目は、主にLevinson (1978)をはじめとしたキャリア発達論の複数の先行研究に基づいて作成された。

分析では、「競技経験や生活」ならびに「引退期の状況と変化」、「Jリーグ・キャリアサポートセンター」に関する言及、「選手以降のキャリアについて相談できる人」や「相談をした際の具体的な様子」についての語りを対象に、（元）選手達がセカンド・キャリアを考える際に、周囲に求めていたものについてコーディングし、分類、カテゴリーを見出した。その後、それらを「周囲の人による支援の役割 (Levinson, 1978)」や「内的キャリア/外的キャリア (Schein, 1990)」と比較、検討を行った。

## 4. 研究成果

本研究で得られた成果は、すべての年度を通じて、国内外の学会、学術論文において公表することができた。

本研究の成果の内容は次の二点に集約される。

(1)「現役時代」の行動や考え方の傾向と周囲の人の属人的な要素が、引退に関する「内的キャリア」や望ましい支援に影響を与えていることが分かった。インタビュー調査によれば、引退期にある日本のトップ・アスリートのキャリアを議論するには、彼らを取り巻く現状について、次のような重要な背景について認識しておく必要がある。一つは、現役時代の日本のトップ・アスリートの認識の中に、引退後のキャリアに関することは「ないに等しい」ということである。引退後の将来のことを考えるのであれば、そこへのエネルギーは現役時代の競技において、勝利に直結するよう費やすことをよしとする行動規範や思考様式が一般的である。よって、現役時代に引退後のことをほとんどイメージすることなくセカンド・キャリアを歩み始めることが多い。第二に、日本におけるトップ・アスリートは、キャリア選択に必要な行動や価値観の優先順位をつけるのに十分な人生経験をせず、置かれたことのない将来の状況への対応をじっくり検討できていないで、引退やセカンド・キャリアの選択を迫られる可能性がある。これは、我が国のトップ・アスリートの多くは、20代から30代という人生の比較的早い段階で引退を経験し、セカンド・キャリアを歩む必要性に直面しているからである。

「内的キャリア」が、多様な事柄に影響を受けた価値観の複合体となりうることを考慮すると、我が国のトップ・アスリートにとって、どれがたったひとつの進みたいキャリ

アなのかを引退時に特定できないことは容易に考えられる。

本研究は、以上のような状況を詳らかにし、

(元) Jリーガーによるインタビュー・データを分析した結果、アスリートが過去から未来へのキャリアについて認識をしっかりと持ち合わせておらず、しかしながら、個人個人の内的キャリアに向き合うという状況に合わせるような支援が重要であることを示した。また、多くの調査協力者は、このような特徴を満たす支援を、組織よりは個人に求めていることが明らかになった。また、データの中には、引退に際して、過去例を見ない身体的な異常や変化に関する言及が見受けられることは注目に値する。トランジション期にあるアスリートへの支援に対して、これらが新たな示唆を与えていることについても、海外の研究者と議論できた。

(2) (元) Jリーガーによるデータを分析することにより、本研究は引退期にある日本のトップ・アスリートに望まれる支援の特徴を見出し、「カレジャスネス (courageousness)」と「アプローチャビリティ (approachability)」として定義することができた。日本のトップ・アスリートがキャリア・トランジションでの試練を乗り切る際に望まれる本質的な支援は、この二つのサポート・システムが共に機能している場合であった。この議論は、「望ましい組織的支援」への改善提案として実践的貢献となった。

「カレジャスネス」は、新しいキャリアにかかわる、周囲の人との接点を再構築する時に、前向きに立ち向かおうとする(元)選手の「心構え」である。一方、(元)選手は「周囲が持つ役割からの支援を受けるかどうか」という意思決定をする以前に、「ここなら自分のキャリアについて相談して大丈夫なのかどうか」という、(元)選手による判断を介在させていることが分かった。この「大丈夫である」、「近づいてよい」とアスリートに思わせる、周囲が持つ魅力のことを「アプローチャビリティ (approachability)」とよぶ。トランジション期は(元)選手にとり、次のキャリアを踏み出すために内的キャリアを構成していくためにはきわめて重要な時期であり、二つのサポート・システムの両方が機能すれば、これを助けるよう働きかけることができるという結論に至った。

さらに、「アプローチャビリティ」に次の四つの要素を見出した。①「集約した情報 (Career-related Information)」は、(元)選手達にとって魅力的な情報を、周囲の人がまとめて持っているということである。ここで「魅力的な情報」は、(元)サッカー選手にとっての職業斡旋的な求人情報や、トライ

アウトに関する情報だけを指しているのではない。重要なのは、(元)選手達の生活スタイルに関する情報も認識し、それに基づいて彼らの導線に情報を用意できるような環境作りができることである。②「受容 (Acceptance)」は、親身になって、いつでも自分を「受け容れてくれる」ことである。どのような内容を打ち明けても、まずは否定せず受け止めてくれると感じさせるものである。③「継続性 (Availability)」は、継続的に関係を構築でき、(元)選手との関係をあきらめて中断したりしないことである。④「守秘 (Confidentiality)」は、(元)選手が打ち明けたことを秘密にできると信じさせるような要素である。必要なときは、1対1になることができる状況を作ることができ、相談内容をむやみやたらと口外しないと信じさせることである。

(元) Jリーガーが、組織的な支援よりも「特定の個人」に支援を求めがちになるのは、①から④の構成要素がいずれも「属人的」なものであるためであった。また、これらの構成要素と支援ニーズとしての(アスリートの)外的キャリアと内的キャリアと照合して考察した場合、①は外的キャリアの支援を求める基準となることが可能で、周囲の人々で組織的に共有することが、他の要素に比べ比較的容易であった。ただし、生活スタイルを熟知してくれていることは、内的キャリアについての相談を促している一面も見られた。一方、内的キャリアに関わる相談で接点を求める場合は、②、③、④を重視していることが分かった。

最後に、この結論は、トップ・アスリートのトランジションのみならず、キャリア発達プロセスで苦悩するすべての人々にとっても実践的な示唆を与えると考えられる。キャリア・トランジションで悩むカレジャスな人を受け容れ、アプローチャビリティでもって接していくことを提案する。

謝辞：本研究は、多くの競技経験者による調査協力と研究内容に対する心温かい支援があつてこそ成立した。ここに感謝申し上げる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

① 小川千里, 豊田則成, 服部泰宏, 金井壽宏, 重野弘三郎 : トップ・アスリートの引退時におけるキャリア・トランジション—生の語り (ナラティブ), 理論的展望と実践的含意—, pp. 143-160, 2009 査読無

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40016898060>

② Ogawa, O.C. : Importance of Dual Support Systems for Japanese Top Athletes in Career Transitions, ISSP World Congress of Sports Psychology, 1-3, 2009 査読無

- ③ 小川千里：内的キャリアをめぐる試論（企業に生かすスポーツ心理学6），労働の科学，第63巻9号，p. 53，2008 査読無
- ④ 小川千里：内的キャリアとスポーツ選手の「キャリア・アンカー」（企業に生かすスポーツ心理学7），労働の科学，第63巻10号，p. 45，2008 査読無  
他1件

〔学会発表〕（計15件）

- ① Ogawa, O.C.：Overcoming the Physical Changes that Japanese Professional Soccer Players Endure upon Retirement, International Council for Health, Physical Education, Recreation, Sports and Dance, Asia Regional Congress, 2011年1月21日，台北，台湾
- ② 小川千里：アスリートの内的・外的キャリアと周囲のアプローチビリティー—（元）Jリーガーのキャリア・トランジションとキャリア支援，日本スポーツ心理学会，2010年11月20日，福山平成大学
- ③ Ogawa, O.C.：Organizational Support and its Implications for Japanese Professional Athletes in Career Transition, International Congress of Applied psychology, 2010年7月13日，オーストラリア，メルボルン
- ④ Ogawa, O.C.：The Importance of Dual Support Systems for Japanese Top Athletes in Career Transitions, ISSP World Congress of Sports Psychology, 2009年6月17日，モロッコ，マラケシュ
- ⑤ 小川千里：引退をめぐる2つのキャリア・サポート・システム（シンポジウム『トップ・アスリートの引退時におけるキャリア・トランジション』—生の語り（ナラティブ），理論的展望と実践的含意—），2008年11月9日，中部大学
- ⑥ Takahashi, K.：Readiness and Skills Necessary for Japanese Professional Football Players toward the Retirement Career (presented at the symposia ‘Top Athletes’ Transition to New Career Horizons), International Congress of Psychology, 2008年7月25日，ドイツ，ベルリン
- ⑦ Ogawa, C.：Internal Support Systems for Japanese Top Athletes in Transition (presented at the symposia ‘Top Athletes’ Transition to New Career Horizons), International Congress of Psychology, 2008年7月25日，ドイツ，ベルリン  
他8件

## 6. 研究組織

- (1) 研究代表者  
小川 千里 (OGAWA CHISATO)  
近畿大学・経営学部・准教授  
研究者番号：90340760
- (2) 研究分担者  
高橋 潔 (TAKAHASHI KIYOSHI)  
研究者番号：90298555  
神戸大学・経営学研究科・教授  
(2008～2009)